

マーケットの動き（2020年12月7日～12月11日）

米国国債市場は、前週末比で金利が低下しました（債券価格は上昇）。
ECB（欧州中央銀行）は10日の政策理事会でおおむね市場予想通りの金融緩和の継続および追加緩和となりましたが、英国のEU（欧州連合）離脱交渉と米国の追加経済対策協議が進展しないことで、市場はリスク回避の動きとなりました。
ドイツ国債も金利が低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し（2020年12月）

長期金利は、米国、欧州ともにレンジ内での動きにとどまる

米国：新型コロナウイルスのワクチン開発進展を受けた社会・経済活動の回復期待から、長期金利の上昇圧力は引き続き強いとみられます。一方で感染再拡大に対する懸念からFRBによる追加の金融緩和観測も強く、レンジ内での動きが続くと予想しています。

欧州（ドイツ）：新型コロナウイルスのワクチン開発進展が期待されますが、感染再拡大の景気に対する影響が懸念されることもあり、レンジ内でもみ合う展開を予想しています。

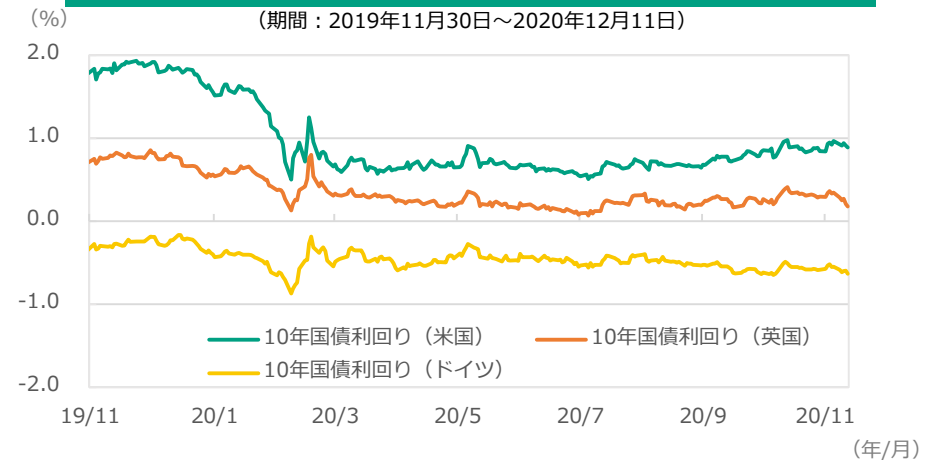
	12月11日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1ヵ月前比	6ヵ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	0.89	▲0.08	▲0.09	0.24	▲0.90
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	496.94	0.33%	1.03%	2.44%	6.01%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202012_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2019年11月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>